



ジャーマンアイリスの育て方

Q. 豪華絢爛なジャーマンアイリスが気に入りました。育て方を教えてください。

A. 今月から9月に日当たりのよい場所に植え、水やりに気をつけて育てれば、来年5月に咲きます。



《ポイント》

根茎を乾かすように浅植えし、チッソ肥料は控えめに施します。おそろしい軟腐病はできるだけ水はけをよくして防ぎます。

1. 株分け



地上部は、全体の1/3ほどを残して葉を切り詰めておく

図-1

花後に花茎を切り取り、枯れ葉を取り除き、葉を全体の1/3に切りつめます。

株を掘上げ、子株のくびれた部分を手で折り取ります。親株についている子株や芽はそのままつけておきます。

(図-1)

2. 植付け

日当たりと水はけのよいところに、株の背が出るように浅植えします(図-2)。

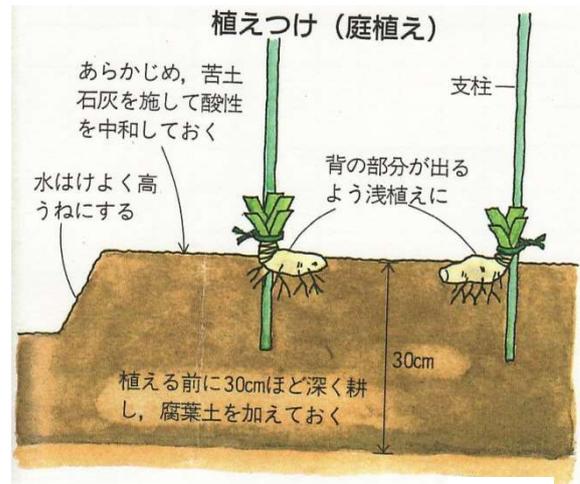


図-2

3. 水やりと日よけ

株に水をかけないことが肝心です。表土が乾いてから2~3日後、中の土が軽く湿っているくらいの状態を保ち、少なめに、株にかけないように灌水します。

真夏には遮光ネットで日よけをします。

4. 軟腐病

根茎や地際部の葉鞘が柔らかくなり、腐っていやな臭いがします。

細菌による病気で薬剤での防除はきわめて困難です。1株でも発生したら、すべての株を掘りあげ、よく乾かして保管し、梅雨後(あるいは秋の長雨後)に改めて植えかえます。



カボチャの人工受粉

Q. カボチャの人工受粉とはどのようにするのですか？

A. 雄花の花粉を雌花のめしべ(柱頭)につけてやります。

《ポイント》

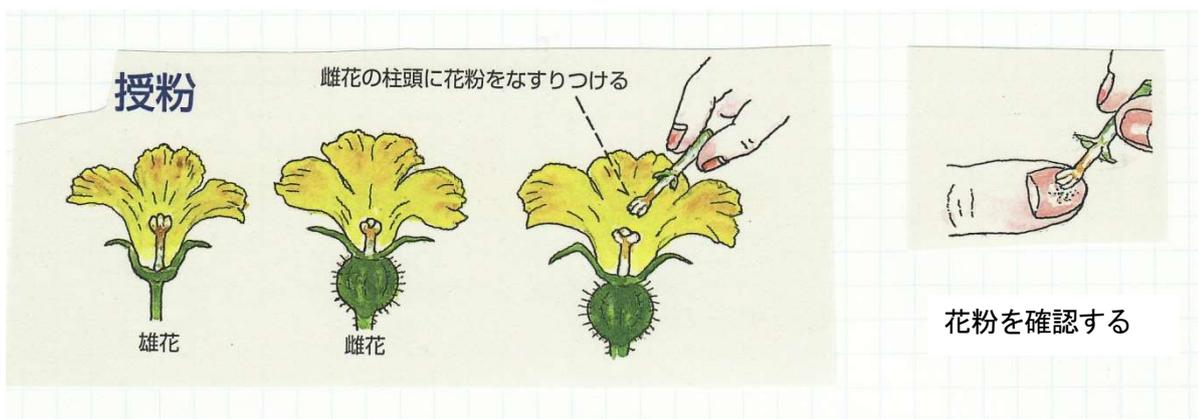
早朝、遅くとも8～9時頃までに行うこと。遅れると花粉が発芽力を失ってしまいます。

1. 雄花が咲いていない。

カボチャを早出し栽培するとき、あるいは雄花の少ない品種を栽培すると茎葉ばかり茂って果実がつかないことがよくあります。そのため、雄花が早く咲くような品種を花粉用の株として植えておくといよいでしょう。また、近所に早いカボチャを育てている人があれば雄花を譲ってもらい、受精させます。

2. 人工受粉

雄花のおしべを爪の上に軽くなすりつけて花粉が出ることを確認してから受粉します。おしべを取って雌花のめしべの柱頭に花粉をなすりつけてやればよいのです。念のために受粉の月日を記したラベルを付けておくと収穫時期の参考になります（開花後45～50日で熟します）。



3. 人工着果

ホルモンで実を止める方法です。ナフタレン酢酸（NAA）の300倍液かトマトトーンなどのホルモン剤を所定濃度の液をつくり霧吹きで雌花全体に噴霧してやるか、筆にホルモン液をつけて雌花のめしべの先に静かに塗ってやります。朝方、9時頃までには終えるようにします。